
シェパート

御門はるま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

シーパード

【NNコード】

N6277Z

【作者名】

御門はるま

【あらすじ】

普通の人には見えない、でもそこに存在する何か。人知れずそれを囮う運命を背負う決意をした僕、だつたが……

ショートショートです。お気軽にどうぞ

(前書き)

short short
story
短いお話。

街中に漂い、走り、時に人に害を及ぼす目に見えない何か。

人はそれを、かまいたち、と呼ぶ。

僕はそれを、？あれ？と呼ぶ。

僕は、？あれ？を囮う使命を持つ。通称、シェパード。？あれ？は、人の力ではけつして滅することができない。だから僕らはシェパードとなり、？あれ？を囮う。毎夜毎夜、？あれ？が人に危害を加えないように、と。

僕の担当地域は新宿である。多くの人種が集まる歌舞伎町を中心とした一帯で、毎晩？あれ？を囮い続けていた。

そして。

今夜だって、うまくやれると思っていたのに。

？あれ？を囮い始めて一時間経った頃、だった。パンツという軽い衝撃。まるでポテトチップスの袋を空けるのに失敗したときのようだった。囮いから解き放たれ、夜空に散っていく？あれ？を僕は見た。囮いが弾けたと理解した。

畜生。そう呴いてもどうしようもない。その後も何度も囮いを作ろううとがんばったが、その度に囮いは弾け、体力だけが消耗していく。どうしても、囮えない。

徐々に増していく疲労感と絶望感に、僕は、自分が初めて？あれ？を囮った時のことを思い出していた。十年前。僕の前に、人一人分はある、巨大な？あれ？が立ち塞がった。内臓が硬くなるような、この世のものとは思えない禍々しき？あれ？。

小さく悲鳴を上げて座り込んだ僕の方を、通り過ぎる人は不気味な者でも見るよう一瞥した。僕以外の人間には、見えていない。

それに気づいたとき、僕を襲つた絶望感。

来るな来るな来るなつ！

無我夢中でそう念じた。気がつくと、目の前の？あれ？を威嚇していた。不思議とやり方はわかつた。僕は全身全靈を込めて、？あれ？を囮つた。

翌朝、？あれ？を囮つた僕の元に、この辺りのシェパードを統括しているという初老の男が現れ、色々なことを教えてくれた。僕はシェパードになる運命を受け入れ、人知れず新宿を守るという使命をまつとうする決意をした。

なのに。

弾けた囮いから散つた？あれ？が、背後から僕にぶつかってきた。あつと声を上げる間もなく、体を突き抜ける衝撃。次の瞬間、今度は正面からずぶりと嫌な感覚があつた。？あれ？はひつきりなしに僕の体を突き抜け、体がガクガクと前後に揺れた。　突き抜ける？違う。？あれ？は、ズブズブと僕の体を侵食している。意識が、視界が、霞んでいく。歌舞伎町のネオンが、虹色の結晶のように見える。

うわっ。

小さな悲鳴が耳に入った。霞む視界が、真っ青な顔をしてこちらを見ている若い男を捉えていた。僕は、彼の方へ一步近づいた。男はひいっとその場に尻もちをついた。

ああ。

理解した。そういうことが。

僕は、彼に向つてもはや輪郭をなさない手を差し出した。明日からこの場所を守る、新しいシェパードに向けて。

(後書き)

少々想像しにくい部分もあるかと思いますが、じつは世界もあるのでは、と思ったことがきっかけで作った作品です。この短編を元に長編化もしました。思い入れのある作品の一つです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6277z/>

シェパード

2011年12月20日23時47分発行